

さん ほん まつ
三 本 松 遺 跡

調査の概要

三本松遺跡は、豊田市坂上町を東西に流れる仁王川に、南北から沢が流れ込む地点の近くに所在する。平成2年12月に仁王川の河川改修に先立つ豊田市教育委員会の試掘調査によって遺跡の存在が確認され、平成4年1月から3月にかけて本センターが事前調査として発掘を行った。調査面積は940㎡である。なお約500m東には、ほぼ並行して調査された三斗目遺跡がある。



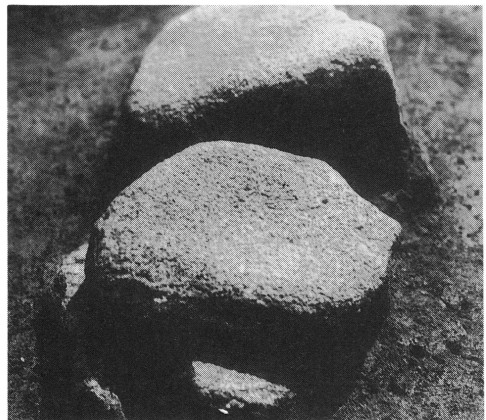
調査区遠景（北より）

調査区は、北向き斜面の山裾の部分にそって設定されており、仁王川によって形成された自然堤防と後背湿地にあたる。調査前の地目は水田である。後背湿地であった部分は粘質土が約1m堆積し、山腹から崩落したと思われる石が散乱している。自然堤防上には、水田を開くために削平されて砂層が露出している部分を除いて、約30cmの厚さで黒褐色シルトの遺物包含層がある。この包含層からは、縄文時代晩期の土器や石器の他に、中世の灰釉系陶器が出土している。包含層を取り除くと小型の土坑やピットが検出された。土坑の中には住居址かと思われるものもあるが、現時点でまだ調査は終了しておらず、詳細は不明である。

(余合昭彦)



調査区全景（東より）



石皿出土状況